

こ いずみ ぶん こう うら い せき 小泉分校裏遺跡

こいずみ ながつつみ
栃木県芳賀郡益子町大字小泉・長堤

現地説明会資料 令和2（2020）年10月18日（日）
栃木県教育委員会事務局 文化財課
宇都宮市埴田1-1-20 TEL 028-623-3425
公益財団法人とちぎ未来づくり財団
埋蔵文化財センター
下野市紫474 TEL 0285-44-8441
<http://www.maibun.or.jp>

小泉分校裏遺跡は、小泉から長堤に連なる台地上に広がる大きな遺跡です。小泉・本沼地区の農地整備事業に伴い、7月から発掘調査を実施してきました。まだ、発掘調査の半ばですが、特徴ある遺構・遺物が発見されましたので、地域の皆様にぜひ知っていただきたく、説明会を実施することといたしました。

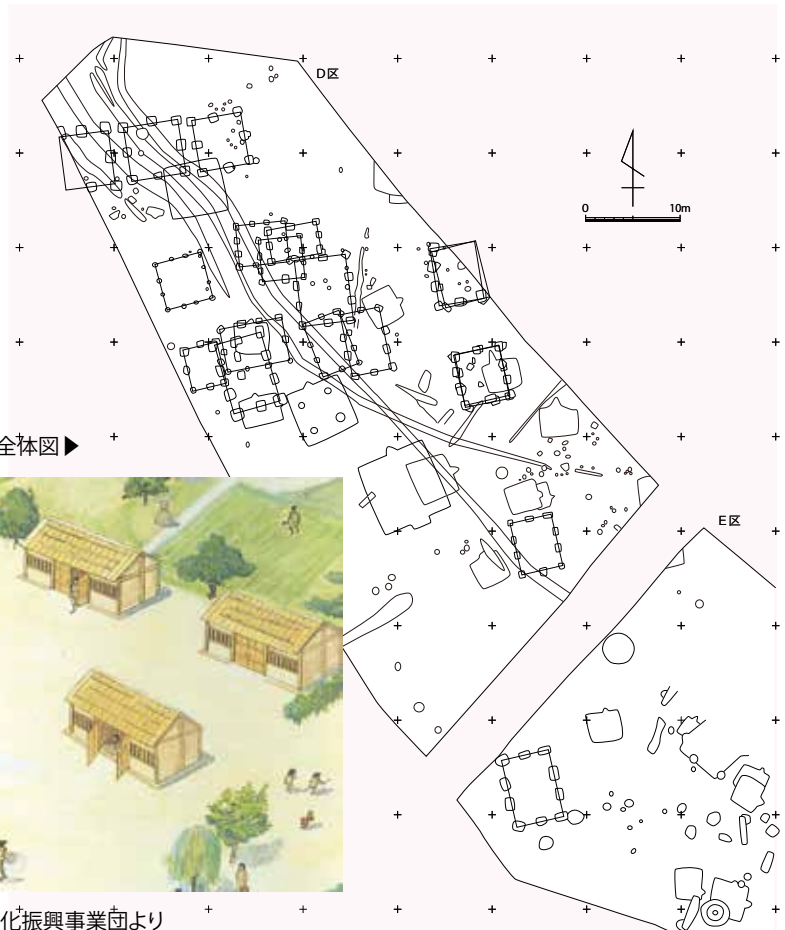
台地中央の高い位置で、古代の大型の掘立柱建物跡や竪穴建物跡が発見されました。掘立柱建物跡は、規則的に配置され、柱の直径は30cm（1尺）、柱を据える掘り方が1m近くに及び、柱の間隔が270cm（9尺）にもなる大きなものもあります。さらに、南側には竪穴建物跡が作られていました。

このような立派な建物群は官衙（役所）に準じる規模であり、この地域の有力者の居宅と考えられます。さらに、本遺跡西側の丘陵の沢には、北山窯や昆沙門入窯などの古代窯業遺跡が連なり、益子窯跡群の一支群となっています。

これらの窯は、郡を支配する郡司層や地域で富裕な富豪層と言われる人々が経営したと考えられています。彼らが、生産した焼き物（須恵器）は下野国内を中心に広く流通していました。

本遺跡は、近くの窯の窯業生産の管理者や、そこに従事した人々の集落であったと推測されます。

古代の芳賀郡では、郡家（郡の役所）が真岡市堂法田遺跡、その出先の機関が中村遺跡といわれ、塩屋郡



小泉分校裏遺跡D区全体図▶



「よみがえる古代の村 多功南原遺跡」1994 栃木県文化振興事業団より

との境には東山道とも関わりが深い長者ヶ平官衙遺跡があります。地域の有力者の居宅として市貝町に北ノ内遺跡や寺平遺跡などがあり、郡内の各地域を治めていました。

遺跡からは、円形有段遺構と呼ばれる大きな穴が発見されました。この遺構は、他の遺跡の調査成果から、古代に高貴な人のみが食べることができた氷を保管した室とする説があります。冬に天然の氷を切り出して、暑い時期に食べたのでしょうか。

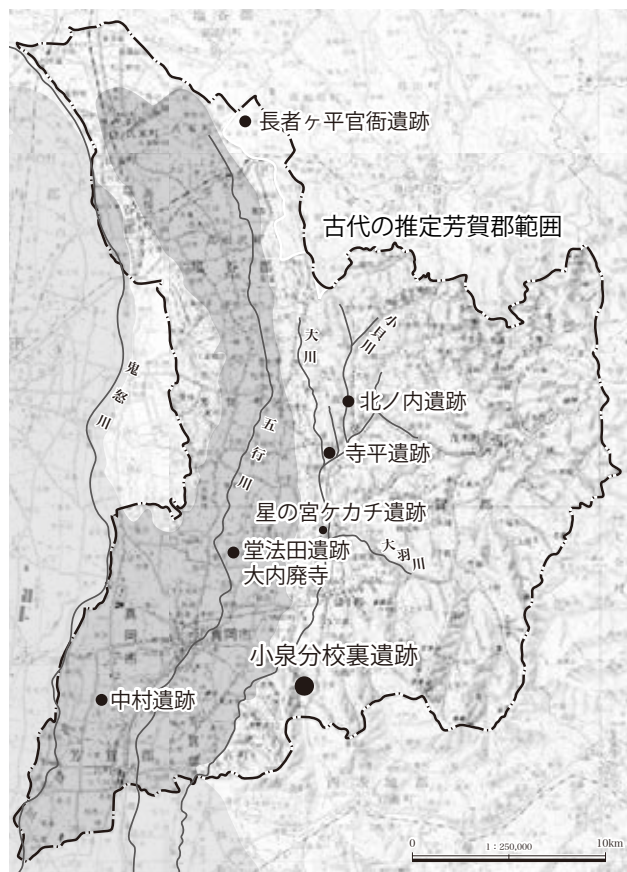
遺物では、茨城県の笠間市の大淵窯か水戸市木葉下窯で作ったとみられる土器が出土しました。益子の窯業生産の管理に係わる遺跡で他の窯の製品が出土したことにより、窯場相互の交流があったと想定されます。窯業経営者か窯業従事者の交流か、今後明らかになることが期待されます。また、墨で文字などを書く時に用いる硯や大刀の金具など珍しい遺物も出土しました。



円形有段遺構



出土した大刀の金具



栃木県埋蔵文化財調査報告369集 『北ノ内遺跡・助五郎内遺跡・星ノ宮遺跡』2014 発行 に加筆



小泉分校裏遺跡と本沼窯跡群